

さがの水産資源回復促進事業（アカウニ生産）

深堀 哲史・大庭 元気

アカウニ生産は、産卵期および生産の都合上、前年度に生産した種苗の配布と、翌年度配布種苗の生産を行う。よって令和6年度は、令和5年度に生産した種苗の配布と、令和7年度に配布予定の20mmサイズ15万個のアカウニの種苗生産を行ったので、その概要について報告する。

方 法

種苗配布

令和5年度に生産したアカウニ種苗に適宜、養殖ワカメ等を給餌し成長させ、殻径20mm以上になり次第、配布を行った。

種苗生産

親の飼育方法、採卵、浮遊幼生飼育から稚ウニ飼育等の種苗生産の基本的な方法は既報¹⁾及び当センターの種苗生産マニュアル^{2,3)}に準じた。

結果及び考察

種苗配布

4月1日～6月13日にかけて、合計50万個のアカウニ種苗を配布した。

種苗生産

1. 採卵・浮遊幼生飼育

採卵は9月19日、30日に行った。親ウニは、当センターで飼育していた個体を使用した。採卵した個体の平均殻径は66.0mmであった。総採卵数は3,521万粒であった。

浮遊幼生飼育は、2,925万個の幼生を用いた（表1）。飼育期間は17～24日間であった。

表1 採卵・浮遊幼生飼育結果

回次	採卵日	平均殻径 (mm)	平均重量 (g)	親数	採卵数 (万粒)	収容幼生数 (万粒)
1	9月19日	66.9	84.9	37	2344.1	1984.6
2	9月30日	63.8	78.4	16	1177	940

2. 採苗および稚ウニ飼育

採苗は、10月3日～10月24日に変態直前の浮遊幼生計565万個体（栽培協会からの譲渡分を含む）を7m³FRP水槽合計7水槽に収容して行った。3～11日後の計数の結果、付着稚ウニ数は169.5万個体であった。

採苗後30日ごろから、培養した不稔性アオサを細かく刻んで投与し、流れ藻が海岸に漂着したときは採取して給餌した。

十分なサイズに達した種苗は、随時取り上げて篩を用いて選別した。篩い上がりはコレクターを入れたトリカルネット製のカゴを設置した水槽に、篩い落ちは防虫ネット製の生簀を張り付着珪藻板を入れた水槽に収容し、継続飼育した。なお、今年度は2月10日より養殖ワカメも合わせて給餌した。

また、50万個体のアカウニを翌年度配布用種苗として継続飼育した。

文 献

- 1) 藤崎博・山浦啓治 2003：種苗量産技術開発事業。(2)アカウニの種苗生産。平成13年度佐玄水業報、73-75。
- 2) 佐賀県栽培漁業センター 1996：佐賀県栽培漁業センター種苗生産マニュアル。45-68。
- 3) 野口浩介 2015：アカウニ種苗生産の現状と課題。平成27年度佐玄水産セ研報7、107-120